

熊本地震支援金として 100万円を寄付

静岡県遊技業協同組合(葉山勝之理事長)は、熊本地震支援活動の一環として公益財団法人ふじのくに未来財団(書馬日出男代表理事)に100万円を寄付した。

5月19日に行われた寄付贈呈式で葉山理事長は「被災地に迅速に、確実に届く活動に生かしてください」とあいさつ。ふじのくに未来財団の溝口和寿理事は、寄付金は同財団を通じて、NPO法人災害支援隊(山本貴史理事長の「熊本に災害用トイレを2000台送るプロジェクト」)に使用される旨を伝えると共に、「(同組合



葉山理事長(右)と溝口理事

から)これまで当財団の応援にと2回のご寄付をいただき感謝しております」とお礼の言葉を述べていた。

鈴与

オイスカに482万円を寄付

鈴与(株)(静岡市清水区入船町11-1、鈴木健一郎社長)は、公益財団法人オイスカに482万2000円を寄付した。

鈴与が提供する機密文書リサイクルシステム『エコロック』。同社では『エコロック』を利用している県内外約600事業所の機密文書処理量に応じて、森林ポイントを付与。売上額の一部(1ポイントにつき10

円)を植林事業に携わる団体などに寄付する活動を平成19年より行っている。植林事業の寄付は今回で10回目。オイスカへは3回目の寄付となるという。

5月25日に行われた寄付金贈呈式で、鈴与の飯田直文専務から目録を受け取ったオイスカ啓発普及部の柿沼瑞穂組織担当部長は、東日本大震災の被災地で黒松の植栽活動

についてふれ、「5年前に現地の人たちを中心に植えはじめた苗木が人の背の高さまで育っている。今後5年間をかけて100ヘクタールの植栽を行っていきます」と紹介。松林ができることで、潮風による農作物や建物への被害が軽減できることから、「現地の人に望まれている活動を支援していただきありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えていた。

静岡豊かさ支援協会

フラワーアレンジメント教室を開催

一般社団法人静岡豊かさ支援協会(中溝一仁代表理事)は5月21日、『第11回できるビジネスパーソンのためのフラワーアレンジメント教室』を開催した。

しずてつストア花だよりの代表で、年間約150人にフラワーアレンジメントの指導を行っている竹本志津馬氏が講師を務めた。

「ふだんあまり経験しないアレンジメントを通して、人としてもビジネスマンとしても幅を広げていくことができます。また男性がお花に取り組み意外性がSNSを通じて顧客と話題になったり、女性にとっては楽しさや癒やしの時間となっています。メンバーは経営者や管理職などが多く、異業種交流の場としても機能していま



寄付金贈呈式の様子



完成した作品を持つ参加者たち

す。11月に同様の企画を予定しているので、ご興味のある方はお声掛け下さい」と中溝代表は話している。なお、静岡豊かさ支援協会のフェイスブックページは「ゆたさぽ」で検索可能。